

磯村英樹 いそむらひでき

下松市  
(1922～2010)

磯村英樹は、幼い頃に両親を亡くし、下松市の母の実家や父の本家で育てられた。

昭和十八年、二十一歳のとき小倉の野戦重砲隊に入隊。満州からビルマを転戦後敗戦を迎え、同地で強制労働に服し、昭和二十一年復員する。この過酷な体験は彼に「人間解放」という宿命を背負わせた。彼は同じような戦歴をもつ磯永秀雄と出会うや共鳴し、絶望克服と正統詩の確立を旗印に詩誌『駱駝』を立ち上げ、人間の始原性を生涯追い求めた。

昭和三十八年、第五詩集『したたる太陽』で室生犀星詩人賞受賞後、日本現代詩人会理事長や会長を務め、我が国短詩型文学界のために活躍した。(田村悌夫)

## 【主な著作】

詩集『したたる太陽』(地球社、昭和38年)

詩集『水の女』(アポロン社、昭和46年)

詩集『朝奏楽』(飛天詩社、平成4年)